

演題名	乳汁からの抗酸菌分離と乳房炎の関連		
発表者 氏名	中島 博美	所属	伊那家畜保健衛生所
<p>管内のヨーネ病発生 A 農場で、患畜の乳汁及び農場の敷料から抗酸菌 (<i>Mycobacterium thermoresistible</i> (<i>M. t</i>)) を分離。当該農場は乳房炎も多発、乳質向上の観点から抗酸菌との関連を検討。A 農場において①乾乳牛及び乳房炎牛の乳汁から抗酸菌分離検査②死亡牛(24ヶ月齢以上)の乳腺組織等から抗酸菌分離検査及び病理組織学検査を実施。延べ 205 検体の乳汁検査、44 検体(21.5%)で抗酸菌 (<i>M. t</i>、<i>M. hassiacum</i>(<i>M. h</i>)、<i>M. chitae</i>(<i>M. ch</i>)) を分離。病理組織学検査で多核巨細胞や類上皮細胞の浸潤による肉芽腫を確認。更に①管内 49 農場のバルク乳②2 農場(B 及び C 農場)の乳汁から抗酸菌の分離検査を実施。バルク乳では 3/49 農場(6%) から抗酸菌を分離。B 農場では 1/20 検体(5%)から <i>M. ch</i>、C 農場では乳房炎乳汁 9/15 検体(60%)から <i>M. t</i> のみを分離。今回の検討では、特定の農場の乳汁から高率に抗酸菌が分離され、乳房炎との関連が示唆されたが、今後さらなる検討が必要。</p>			